

令和7年度第2回滋賀県環境審議会水・土壌・大気部会での主な御意見と対応

No	該当箇所	委員	御意見	対応
1	第8期計画の 振り返り (課題②:新たな水質管理手法の検討)	和田委員	「小型植プラの増殖条件」の記載について、「小型植プラ」では、水道に障害を引き起こすピコプランクトンのことを想像することがある。資料に記載されている小型植プラはどういったプランクトンを対象としているか、説明を追記してほしい。	ご指摘を踏まえ、対象としている小型植物プランクトンについて、以下の文を追記しました。 「※アユの餌になるミジンコ等の動プラが摂食可能な小型（およそ45μm以下）の植プラ」 ※振り返り資料 P. 18
2	第8期計画の 振り返り (課題③:気候変動の対策に向けた調査研究等)	中野委員	琵琶湖の湖底の研究において、アナンデールヨコエビやスジエビなど、泥の表面に生息するベントス（底生生物）を調査しているが、泥の中に生息するミミズなどの生物に着目した研究はしているのか。	琵琶湖環境科学研究センターでは、令和5年度から、ミミズの他にヨコエビ等を用いた、底生生物による湖底の栄養塩循環と、有機物分解（水質・底質の健全化）の貢献について研究しています。
3	第8期計画の 振り返り (課題③:気候変動の対策に向けた調査研究等)	和田委員	底層溶存酸素量の年度最低値も重要だが、生態系への影響を考えると、貧酸素状態が継続した期間も重要であることから、この期間も整理しておいてほしい。	ご指摘を踏まえ、貧酸素および無酸素状態が継続した期間についても整理しました。 ※振り返り資料 P. 24
4			近年、アオコの発生期間が長期化していることについて、アオコが発生するとカビ臭による課題も発生する。令和8年度は北湖でもカビ臭による課題が発生したと聞いている。こういったカビ臭についても記載してほしい。	ご指摘を踏まえ、アオコに関連してカビ臭についても資料に記載しました。 ※振り返り資料 P. 26